

所長だより第64号 令和元年11月11日

# 希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに学んで世界の明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール  
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号  
<https://uminoko.jp/>

## 新しい学習を試行しています

【所長 小野澤 稔香】

所長だより第62号でも紹介しましたが、びわ湖フローティングスクールでは、平成29年度より5年計画で「つながりが生まれるフローティングスクールの創造」を研究テーマとして、新船での新しい学習のあり方を継続的に研究しています。今年度は、「児童と人のつながり」を主な視点に置き、船内での交流や、県内の関係機関や地域の人材との連携のあり方等について乗船校の先生方にもご協力いただき研究を進めています。

9月25日～26日の第52回航海（渋川小学校・常盤小学校）では、琵琶湖に関わる取組をされている方々を講師として船内にお招きし、活動についてお話を聞いたり、直接質問したりする活動に取り組みました。お招きしたのは、琵琶湖のプランクトン研究、セタシジミを守る活動、外来魚の駆除活動、外来の水草の除去活動、ヨシの再生利用といった、琵琶湖と直接関わっておられる方々です。なぜその活動に取り組んでいるのかについての熱い思いや、活動における苦勞、これから琵琶湖に関わっていく子どもたちへのメッセージ等をお話いただき、まさに「本物」とのつながりを持つことができました。子どもたちからも、次々と質問が出て、自分の学習課題に迫ることもできたようです。



9月27日～28日の第53回航海（大原小学校〔甲賀〕・佐山小学校・油日小学校・甲南中部小学校）では、琵琶湖博物館との連携を図る航海を実施しました。乗船前の学習では、各小学校が琵琶湖博物館の先生をお招きし、琵琶湖の基礎知識をレクチャーしていただきました。子どもたちは、学んだ中から「うみのこ」乗船中に探究する個々のテーマを見つけることができました。また、乗船中のびわ湖学習では、琵琶湖博物館とうみのこを結んでweb会議を実施。それぞれのテーマについての学びをさらに深くしたり、実際にブラックバスの解剖の様子を見せていただくことによって琵琶湖の中で繰り広げ

られる食物連鎖について学んだりすることができました。

いずれの取組も参観しましたが、やはり実際に琵琶湖と関わっておられる方の言葉には説得力があります。その言葉を受け止める側の子どもたちは、真剣なまなざしで講師の先生を見つめ、熱心にメモを取っていました。主体的に学びに向かえていることがはっきりと分かる姿でした。関係機関や地域の人材との連携を図ることは、日程調整等大変な面も多いのですが、得るものはとても大きいと感じました。

乗船前・乗船中・乗船後の学習内容や二日間の航路などは、乗船校の先生方が話し合ってお決めいただいています。フローティングスクールは、子どもたちの探究的・主体的な学びを支えるために、「このような学習はいかがですか。」とお薦めできる活動を、今後も研究・開発してまいります。